

小学校外国語教育 ～移行期間が始まります！～

山形県教育庁義務教育課

いよいよ 2020 年度からの新学習指導要領全面実施に向け、移行期間が始まります。
この2年間で小学校の外国語教育について知識と理解を深め、自信を持って授業を行うことができるように準備を進めていきましょう。

このリーフレットでは、実際に外国語活動や外国語の授業を行う上で、大切にしたい考え方や指導の在り方などについてまとめています。
移行期間中に研修や実践を重ねながら、指導力を高めていきましょう。



※各項目の始めに、文部科学省作成の「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」の対応するページを「☆ガイドブック」として示しました。合わせてご覧になると一層理解が深まります。

1 外国語活動と外国語の目標

☆ガイドブック p14～22

新学習指導要領の外国語、外国語活動の目標を正しく理解しましょう。外国語活動が高学年から中学年へ、また、高学年は中学校の内容が単に前倒しされたのではなく、それぞれの発達段階に合わせて目標や内容が設定されていることに注意が必要です。

外国語科の 目 標	外国語活動	外国語
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識・技能	(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによるコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
思考力・判断力 ・表現力等	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
学びに 向かう力 ・人間性等	(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

※外国語活動と外国語の目標を比較し、ポイントだと思われる部分をマークしてみましょう。

※「5つの領域別の目標」についても、学習指導要領解説の一覧表で同じように確認しましょう。

2 小学校外国語教育の言語活動

☆ガイドブック p23～26

目標にもあるように、コミュニケーション能力の素地・基礎となる資質・能力は、「言語活動を通して」育成することを目指すとされており、学習指導要領の巻末には、各領域の目標に対応した言語活動の例が示されています。言語活動の例を見ると、各領域で育成を目指す児童の姿が具体的にイメージしやすいのではないのでしょうか。

<話すこと〔発表〕の例>

	3・4年生 外国語活動	5・6年生 外国語
目 標	イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
言語活動の例	イ 自分の好き嫌いや、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。	イ 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。

ここでいう言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味します。言語材料について理解したり練習したりするための活動とは区別する必要があります。言語活動では、コミュニケーションの目的や場面、状況を明確に設定したり工夫したりすることが重要です。練習活動も必要ですが、練習だけで終わることのないように注意しましょう。また、「聞くこと」などのインプットの活動から「話すこと」などのアウトプットへ、という活動の流れを大切にしましょう。



3 授業をする際に大切にしたいこと



外国語の学習は人と人をつなぐ道具である言葉の学習です。注意深く聞いて相手の思いを理解しようとしたり、持っている知識などを総動員して自分の思いを伝えようとしたりする体験を大切に、これまでの外国語活動で積み重ねてきた経験を生かしながら授業づくりをしていきましょう。

(1) まず、「聞くこと」を大切にする

☆ガイドブック p98、p148～150

まず聞いて分かる語句や表現が増え、聞き慣れたものを話せるようになり、音声と文字と結びつき、読めるものが増えていく…というのが、言葉が身に付いていく自然な流れです。新しい語句や表現を導入する際には、話すことを早急に求めず、特に聞かせる活動を優先しましょう。

「聞くこと」の活動のポイント

- ① 聞く必然のある場面を意図的につくること
- ② 児童の興味関心に合った「意味のある内容」を聞かせること
- ③ 一度で理解することを求めず、具体物やジェスチャーなども使って繰り返し聞かせ、
- ④ 内容が分かった、推測できたという経験をさせていくこと

外国語に限らず、低学年から、学び合い、互いにしっかり相手の話を聞くことができる集団づくりをすることも大切です。

(2) 小学校での文字の扱い方に留意する

☆ガイドブック p80～83、p100～101

文字に関わる領域別の目標は、以下のようにになっています。 ※下線はこちらで加えたものです。

外国語活動	【聞くこと】 ウ <u>文字の読み方</u> が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。
外国語	【読むこと】 ア 活字体で書かれた文字を識別し、 <u>その読み方</u> を発音することができるようにする。 イ 音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。 【書くこと】 ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を <u>書き写す</u> ことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、 <u>例文を参考に</u> 、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

外国語活動

- ・「文字の読み方」とは、“文字の名前”です。
- ・「エイ」「ビー」「シー」と、文字の名前が発音されるのを聞いて、大文字、小文字と結び付けることができるようにします。

身の回りにあるアルファベットに気付かせるなど、児童が英語の文字に興味・関心を高め、楽しみながら文字に慣れ親しめるようにしましょう。

外国語

【読むこと】

- ①英語の文字を見て、“文字の名前”を発音できるようにします。(A → /ei/)
- ②“文字の音”に気付き、十分聞いたり言ったりした語句や表現を絵本やポスターなどのの中から見つけられるようにします。

【書くこと】

- ①“文字の名前”が発音されるのを聞いて、大文字、小文字が書けるようにします。
- ②英語の語句や文を、語順や語と語の区切りを意識しながら書き写すことができるようにします。
- ③十分聞いたり言ったりした語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書くことができるようにします。

「音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や表現」を読んだり書いたりするということが重要です。初めて見る英語を読んだり、何も見ずに自分の力で書いたりすることが求められているわけではない、ということに注意しましょう。

また、情報を探すために読んだり、相手に伝えるために書いたりするなど、目的を持って活動させるようにしましょう。たくさん書くことよりも、丁寧に、気持ちをのせて書くことを大切に、楽しみながら英語の文字に慣れ親しませましょう。

新教材の「We Can!」では、単元を通じてほぼ毎時間「Let's Read and Write」という言語活動が位置付けられており、少しずつ読むことや書くことを積み重ねることができるようになっていきます。デジタル教材や文部科学省のHPで提供されている、アルファベットのフォントや4線の引かれたワークシートなども活用しながら、丁寧に書かせるようにしましょう。



小学校の外国語では、以下のようなことは求められていません。

- ◆聞いたり言ったりしたことのない、初めて出会う単語や表現を読むこと
- ◆例の無い状態で単語や英文を書くこと
- ◆意味の分からない単語を目的意識もなく何度も読んだり書いたりすること

(3) ティーム・ティーチングを効果的に進める

☆ガイドブック p108～113

A L T の活用時数の割合は、県内でも増加傾向にあり、英語が堪能な地域人材の活用も広がっています。学級担任と A L T 等それぞれの特性を生かし、効果的なティーム・ティーチングを進めていきましょう。

学級担任等の役割	A L T の役割
○授業のコーディネーター ・「児童の言いたいことを引き出す」「英語で言えないことを代弁する」など、児童の学習をサポートする。 ・児童の反応を見て、A L T に繰り返し言ってもらったり、ゆっくり言ってもらったりするなど、A L T と児童をつなぐ。 ○授業をデザインする ・児童の発達段階に応じた内容、他教科等と関連させた題材など、児童の興味・関心を生かした活動を考える。	○コミュニケーションの相手 ・児童が実際に英語を使う体験をさせる ・外国の人と直接接する経験をさせる ○ネイティブ・スピーカーとしての英語力 ・生きた英語によるインプット ・発音のモデル 

基本的な授業の計画や進行は、外国語活動及び外国語のねらいや、児童の実態をよく知っている学級担任が行い、A L T には、正しい英語を話す存在、英語でのコミュニケーションの相手、異国の文化や生活について教えてくれる存在として、授業の補助を行ってもらいます。簡単な内容であっても、児童の前で学級担任が楽しげに A L T と英語でやり取りをしている様子を見せることは、児童の学習への意欲や英語への興味・関心を高めることにつながります。児童と一緒に発音や表現を学ぶつもりで、ティーム・ティーチングを楽しみましょう。

4 単元・授業づくりのポイント

☆ガイドブック 外国語活動 p32～54、外国語 p56～88

①ゴールの明確化

単元を通してどのような力を児童に身に付けさせたいのか、単元の終末で目指す児童の姿を具体的にイメージします。目標の実現に向けて逆算して1時間ごとの目標を定め、活動を組み立てながら単元を構成します。

言語活動は、まず「聞くこと」から「話すこと」へ、児童の過度な負担とならぬよう、細かいステップを踏みながら段階的にゴールに向かうようにします。

②目標に沿った活動の選択と効果的な配列

毎時間の目標が決まったら、それぞれの目標に添って具体的な活動を選択します。児童の実態に合わせ、活動での反応や思考の流れなどをイメージしながら活動を配列しましょう。

児童が主体的に活動でき、目指す資質・能力が育つように、活動の種類や形態、活動量などのバランスにも配慮しましょう。

③授業の構成の工夫

英語の挨拶で授業開始の雰囲気をつくり、ウォームアップなどでリラックスした中で中心となる活動に移ります。1時間の中でも、基本的には「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の順序性を踏まえ、段階的な組み立てを行うようにしましょう。

単元の中でのその時間の位置付け、目標や評価、活動のねらいを十分に理解して指導に当たります。

④題材選定の工夫

深い児童理解のもと、児童が、「聞きたい」「やってみたい」と身を乗り出すような場面を授業の中に設定し、主体的な学びを促しましょう。

⑤他教科等との関連の視点

他教科で学んだ内容や、行事等で共通に体験したことなどを題材として取り入れることで、児童の興味・関心や知的好奇心に沿った活動となり、児童の意欲の高まりが期待できます。年間を見通した計画を工夫してみましょう。

